

Out of Sight

新たなものは限界を超えた先に生み出される。
アスリートの記録も、発明家の発想も、クリエイターの表現も、
常識だと受け入れていた枠組みを壊すことから始まる。
境界の再定義のその先で、視界は開かれていく。
過去から未来へ、現在を超えるリレーは続く。

アーロン・ニエ

AARON NIEH / 聶永真

Printing Director : 山口 理一

ABOUT TRIAL

トライアルについて

■限界のその先こそ新たなものは誕生する

人類は常に限界のその先を目指してきました。先人が学習と研究を通じて追求してきた可能性を遺産として受け継ぎながらも、それに満足できずに私たちは常に限界を超えようとしています。

たとえば、競技で身体の世界を超えるアスリート、斬新な方法で新しいものを生み出す発明家、実験的表現によって見慣れたものを新しいものに変えるグラフィックデザイナーなど、限界を超えてきた例を私たちは数多く目にしてきました。私は常にそのことを考えながら創作し、限界を超えることを自分に求め続けてきました。なぜなら常識や思考の枠組みを壊すことでしか、新しいビジョンは見出せないからです。

境界が曖昧になった時、ルールが解体、再解釈された時、または空間を異なる軸で捉え直した時、新しい何かは初めて見えてくると思います。

■時代から時代へ、作品と才能は受け継がれる

これまで様々な時代で数多くのグラフィックの傑作が生まれ、表現の領域が拡張されてきました。アスリートが生まれながらに能力を備えているように、作品にはその作品独自の雰囲気があります。それはその時代の本質や哲学を反映しており、受け手に様々な新しい美の概念をもたらします。才能に溢れたパフォーマンスは、境界や限界を時に融合し、時に超越しながら世代から世代へとバトンをリレーするように受け継がれています。

そこで、私もルールに囚われることなく、私自身が新たなフレームとなって新しい枠組みを生み出す



ことにチャレンジしました。

■グラフィックデザインの進化を5枚の作品で

作品のサイズは一見無秩序に見えますが、実は全てB1ポスターの面積と同一です。B1という枠組みを超えることが過去の慣習と新しいやり方の間をリレーする、一種のバトンとなるのではと考えました。

各作品はグラフィックデザインの進化に焦点を当てたものです。それぞれが異なる時代を表している、その時代における表現の手法と視覚効果、そして表現の多様性がリレーしていく様子を表現しました。さらにオリンピックの様々な競技をイメージしながら、抽象的なグラフィックに仕上げました。

ポスター1ではプリミティブな美しさを表現しています。ポスター2では、後に到来するスマートフォン時代のコミュニケーションの始まりを歪んだ絵文字で示しました。ポスター3は、アナログとデジタルの融合をグラフィカルに表現しました。さらにポスター4の画像はWebのコーディングをイメージし、ポスター5ではサイバーアート（ポストインターネットアート）のパフォーマンスを表現しました。

■デザインは境界を超え、時代を超えて

この作品では2種類のブルーを使いました。この2年ほど、私はRGBの神秘的な光の誘惑に魅せられ、Instagram上でRGBのブルーを巡る表現を展開しています。しかし、過去何度かの挑戦では、残念ながらこの色を印刷で再現することは叶わずにいました。

トライアルではこのネオンカラーの再現に挑戦しました。印刷のCMYKの発色に慣れ、RGBの美しさにも慣れ親しんでいるグラフィックデザイナーとして、この二つの色の表現法の感覚の共存を実現すべく、私はネオンのような色調を紙に貼り付けてみたいと考えました。ネオンカラーは私にとってRGBのようなものです。いつかCMYKと同じくらい簡単にRGBを印刷できれば、表現の可能性は広がり、限界を打ち破ることができるのではないかと思います。

アーティストが生まれ出してきたすべての表現は贈り物です。そこには独自のルールがあり、時代の本質が備わり、特定の哲学があります。それぞれの時代の美学は、グラフィックデザイナーからそのメッセージを受け取りながらも新しく解釈され、そして新しい領域へと境界線を超えて時代から時代へとリレーされていくのです。

来場者の皆さんには、ご自身の見方で作品を自由に読み解き、それぞれのメッセージを受け取っていただきたいと思います。アイデアや美しさの味わい方は人それぞれです。私も皆さんの様々な声を楽しみにしています。

最後に、私が心から大切にしている言葉を贈ります。デザイナーの皆さんはもしかしたらどこかで聞いたことがあるかもしれません。

“BE **BOLD** OR *ITALIC*, NEVER REGULAR.”

青について

以前、日本の瀬戸内国際芸術祭を訪れたとき、私はジェームス・タレルの光で表現された青い長方形の作品に魅了されました。それは密室の中ではっきりと輝いている、極めて神秘的な作品でした。私の感覚にここまで影響を与え、しかも物理的に捕えられない青色を見たのは初めてのことでした。その時以来、その青色は忘れられない視覚的な記憶となり、この色に恋し続けます。

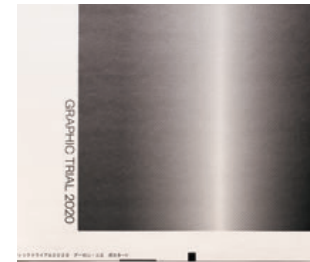
もともとロンドンでコンピューターアート勉強していたこともあり、近年はRGBを数値で指定して作品をつくるのが好きです。Instagramの作品は、プログラミング言語によるコーディングで作成し、数字と関数から成るRGB特有のトーンを表現しています。RGBのブルーの明るく光るような色調は印刷ではどうしても表現できないので、最近では印刷でアプローチできない視覚表現はInstagramを活用しています。いつかモニターと印刷物の間の色彩表現の境界が曖昧になる日が到来し、あらゆる色と表現がより簡単な方法で再現できるようになることを待ち望んでいます。



アーロン・ニエのInstagram作品

グラフィックデザインの進化をイメージした印刷設計

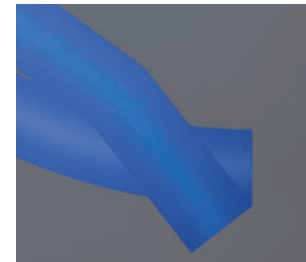
一連のポスターは、形状や材質、モチーフやパターン、色調などをイメージしてグラフィックデザインの進化の過程を表現している。印刷設計ではクリエイターのコンセプトを咀嚼し、一部の用紙に高画紙や透明な素材を用いて時代のイメージを増幅・強調することを試みた。色調再現ではキーカラーとなる特色ブルーの彩度を維持できるように努めた。



①初期のグラフィック表現
高画紙にスミ単版のみの網点表現で時代性を強調した。



②デジタルコミュニケーション時代の到来
デジタルの時代に入り、鮮やかさを増したグラフィックのイメージを特色インキで表現した。



③アナログとデジタルの融合
アナログとデジタルの共存の時代をポスター2より鮮やかなブルーで表現した。



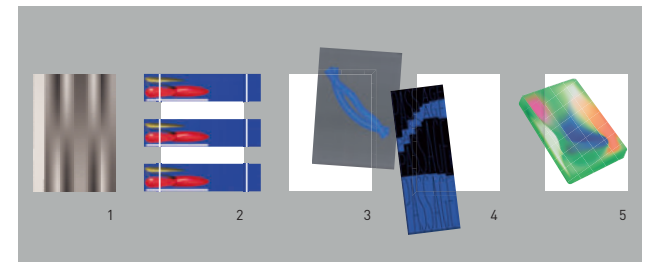
④コンピューター言語による表現
コーディングによるグラフィックを鮮やかな特色で表現した。



⑤ポストインターネット・サイバーアートの時代
透明な素材に裏から刷り、次世代の表現を示唆。蛍光インキ単版の重ね刷りで鮮やかさを演出した。

「領域の再定義」のコンセプトを表現した展示方法

「未来を切り拓く可能性に共通するのは、常識やタブー、技術の境界などの制約に囚われずに、自らフレームを再定義して構築することにある」というコンセプトを、B1規格のポスターの枠を逸脱した組み合わせで表現。5枚のポスターは既存の枠内から、各時代の主要メディアの形態を彷彿とさせながら変容を遂げ、最終的にすべての制約から解放されたイメージへと移行している。

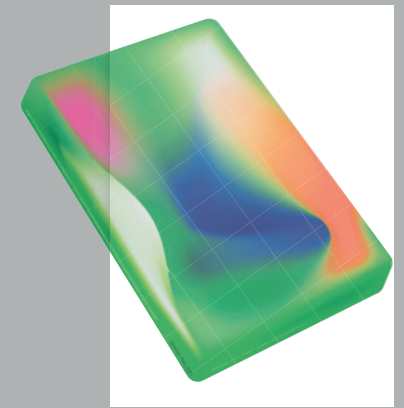
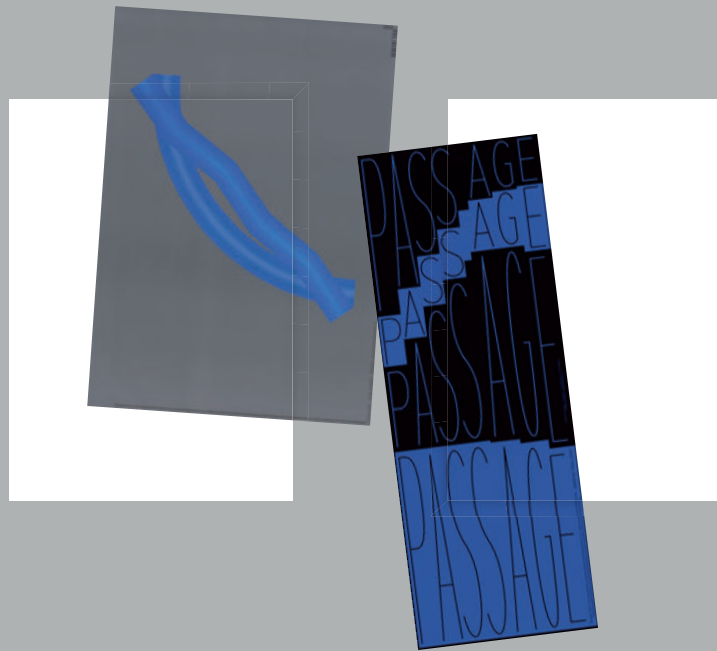
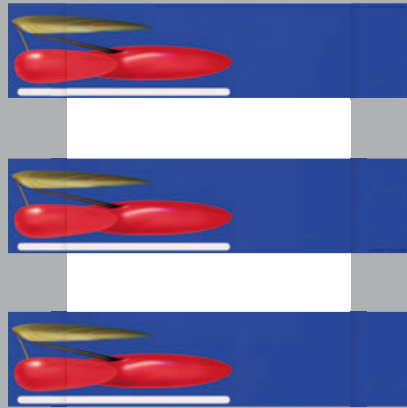


①ポスター1
B1定型の枠内に収め、過去の紙媒体を象徴している。

②ポスター2~5
背景のB1定型（白枠）から逸脱しつつ面積はB1を保持。ポスター5では面積の制約も取り払った。

FINISH

全作品とディテール



1

2

3

4

5

- 1_オフセット印刷 1色 (K) 用紙: OKアドニスラフ70
- 2_オフセット印刷 6色 (K→C→M→Y→特ブルー①→蛍光ピンク) 用紙: エスプリコートFP
- 3_オフセット印刷 4色 (特ブルー②→特グレー×2→K) 用紙: エスプリコートFP
- 4_オフセット印刷 3色 (K×2→特ブルー②) 用紙: エスプリコートFP
- 5_オフセット印刷 10色 (K→C→蛍光ピンク→Y→特ブルー②→特グリーン→特オレンジ→ホワイト) 用紙: アリンダ (OFT-N100)
※裏面に逆版で印刷・ホワイト3度刷り